

検察官が組合つぶし発言

「連帯、どんどん削っていきますよ」

4/26 大津地裁の公判で明らかに

4月26日、大津地裁の公判で、検察官が組合つぶし発言をくりかえしていたことが明らかになった。

この日は、弁護団の請求で、元執行委員のSさんに対する取調べ録画が法廷で上映された。Sさんは2018年8月9日、関西生コン事件で最初に逮捕された組合員。録画は翌日の8月10日のもので、3回にわたって13分ほどが再生された。

氏名も黙秘すると告げたSさんに対し、大津地検の多田尚史検事は次のように話し出した。(以下は法廷メモによる。画像は4月26日夜の京都新聞デジタル版)

● 「本来の労働組合に変わってもらわなきゃ」

「私はひとりでやってるわけじゃない、警察と検察官は何人もいるからね。みなさん、連帯きちっと削ってくださいという話もある。当然やりますよ。これからどんどん、削っていきますよ。きちっと削って、なにが残るかわからないけど。」

「今後どうしたらいいのか。正しい道を選択しなきゃ。いつまでも連帯がいまの現状でいいのかどうか。変えなきゃ。いい方向に。悪い方じゃない。きちっとした、ほんらいの労働組合に変わっていてももらわなきゃ。それがあなたたちの責任。」

「きちっと組織を変える。自分が正しい道をするためになにをしたらいいのか。自分の身の振り方を考えてほしいな。」

地域

「組合を削る」取り調べで検察官発言 地裁で映像上映、関西生コン公判

2022年4月26日 19:45

 記事を保存

大津地裁

生コンクリートの調達を巡り、工事を妨害したとして威力業務妨害などの罪に問われた全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部（関生支部）委員長（49）ら5人の公判が26日、大津地裁（畑山靖裁判長）であり、検察官が被告を取り調べた際に「組合を削る」と発言した記録映像が上映された。

上映されたのは、元執行委員の男（61）の取り調べ映像。2018年8月、大津地裁の検察官が黙秘を続ける男に「あなたが逮捕されて、それで終わるはずもない。これからどんどん連帯（労組）を削っていく」「どんどん連帯削っていったら、正しい方向に導いてあげなきゃ」などと発言する様子が記録されていた。

1月の公判でも検察官が別の組合員に脱退を促していると思われる映像が上映された。一連の映像を証拠提出した弁護団は「組合をつぶそうとする捜査機関の意図が明らかになった」と指摘する。

起訴状によると、5人は他の組合員らと共に、17年2月、大津市の工事現場で住宅会社の現場責任者らに「ブルーシートがはみ出している」などと言いがかりを付け、工事を中断させて業務を妨害した、などとしている。

● 「正しい方向に」

Sさんは不当に逮捕されたことに怒っているからだろう。無言のまま、向かい側に座る多田検事をにらみ付けている。そのSさんに、多田検事はおかまいなしに、「連帯、削る」「連帯、削る」をくりかえす。

「いままで、どっぷり連帯にいらしたわけだから、別に連帯に帰ったっていいじゃないですか。だけど、削りますよ、連帯は。削っていったら、きちっと労働組合として立て直してもらったらいいじゃないですか。正しい方向に。」

「連帯、かばう。ひとばしらになっ

て、しゃべらずに裁判を受ける。有罪を受ける。それもひとつの選択肢といえば選択肢ですけど、それで、あなたの人生、いいんですか？」

● 「フフフツ」

それでも反応せずならみ付ける S さんに対し、「お前たちは袋のネズミなんだぞ」と多田検事は言いたいからなのだろう。「新しい風が吹いている」などと言って、タメ口まじりのお説教をしはじめる。

「連帯、処罰してください。業界、良くしてくださいって声があちこちから出てる。みなさんの協力で、よし、連帯削れるってことで捜査がはじまった。そういう新しい風が吹いている。みなさんの期待に、応えられませんか？」

「これからどんどん連帯削って行って正しい方向に導いてあげなきゃ。労働組合も教えてあげなきゃって考えているわけ。そこで、先頭に立って支えてくれるひと。後方支援でもいいけれど、S さんぐらいの方が後方支援なり、まとめるなりしてくれるんじゃないか。」

「私は勝手に期待している。建設的に話ができるってのを、いまでも期待しているし、今後も期待している。フフフツ、私は待ってますから。最後の最後まで、あなたをずっと待ち続けているし、信じている。」

1月の公判では、横麻由子検事の執拗な組合脱退勧奨が取調べ録画で明らかになった。こんどは露骨なまでの組合つぶし発言だ。

勝ち誇ったかのように「削る」「削る」をくりかえす多田検事が、この時点で一連の事件がその後のべ 80 人以上、4 府県の警察・検察が連携する戦後最大規模の組合弾圧事件になることを知っていたのかどうかはわからない。しかし、多田検事のこの発言は、なにかしら刑事事件になるできごとがあったから組合員が逮捕されたのではなかったこと、関西生コン事件が当初から、労組壊滅作戦として仕組まれたものだったことを示してあまりあるものといえるだろう。